

背中に発信機付け 回遊調査

ウミガメきょう放流

名港水族館

名古屋港水族館生まれのウミガメの子ガメに発信機をつける作業
 博士から名古屋港水族館で



アカウミガメの子ガメの太平洋回遊ルートを調査している名古屋港水族館（港区港町一）は、子ガメ二十五匹に小型発信機を取り付けた。三十一日に放流し、人工衛星を通じて子ガメの位置を把握する。

放流は、NOAA（米国海洋大気局）との共同研究で二〇〇三年に始まり、八回目。同水族館で、〇七年八月に生まれたガメ（甲長約三十センチ）を房総半島沖の黒潮に放流

する。NOAA専門官のシヨージ・バラース博士らが甲羅の上にアンテナが付いた発信機を取り付けた。同水族館の飼育係の岡本仁さん（こ）は「暖流と寒流が混ざる海域に滞留することが分かってきた。ウミガメの生活史を知る上でも大切な調査。いい



2009年(平成21年)3月31日(火曜日) 市民 20

新 中 日 報